

2021年(令和3年)1月8日(金曜日)



信用される日本人

以前、アメリカとメキシコへ観光旅行に出かけた田中さん夫妻の体験です。

メキシコでの観光を終えてアメリカへ入国しようとしたとき、入国審査を待つ人々で長蛇の列ができていました。前方を見ると、入国する人は係官からあれこれと質問を受けているようです。片言の英語しか話せない田中さんは不安になってきました。

田中さん夫妻の番になりました。不安な気持ちのままパスポートを差し出すと、係官は「ジャ

道徳で人と社会を幸せに

「パニーズ？」と言ったきり、それ以上何も質問をせず、簡単な荷物検査だけで通してくれました。「イエス」と言っただけの田中さんは、拍子抜けしましたが、このとき、自分たちが日本人として国際的に信用されていることを感じたのです。

ふだんの生活の中では、自分が国の保護下にあることをあまり意識することはありませんが、時にはこうした恩恵に、思いを馳(は)せてみませんか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名:「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)1月15日(金曜日)



「心」が「亡」になると……

人間関係における不和や対立は、初めは些細(ささい)な出来事から生じることが多いものです。第三者から見れば些細なこと、たわいないことと思えるのですが、当人はその「些細な出来事」によって乱された自分自身の心が不和の原因をつくり出していることに、なかなか気づかないのです。

「忙しい」という字は、「心」が「亡」くなる」と書きます。忙しいさの中で心のゆとりが失われる

道徳で人と社会を幸せに

と、私たちはつい、周囲の人々への配慮を欠いた自己中心的な言動をとってしまうがちです。こうした「心の乱れ」が、人間関係にも波紋を広げていくのではないのでしょうか。

忙しいときこそ自分の心を静かに見つめ直し、落ち着いて状況を判断し、相手のことを思いやる優しさを忘れないようにしたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名:「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)1月22日(金曜日)



相手と関わるためには

特に子供が思春期を迎えたときなどに、「わが子はこうでなければならぬ」という親としての思いから、「つい」それではだめだ、「ああしなさい」「こうしなさい」という言葉が多くなってしまう——そんな経験はないでしょうか。

自分の考えが正しいと思いつみ、そのことを相手に無理に押しつけようとする態度では、相手はそれを心の中で拒否してしまってしまう。相手と関わるためには、まず自分自身が素直

道徳で人と社会を幸せに

になり、相手の言葉に耳を傾け、相手に共感していくことが求められるようです。

親子関係の場合、子供が「親は自分の気持ちを理解してくれ」と気づいたとき、親子の心は通い合い、信頼関係が深まっていくといえるでしょう。そして、このことはすべての人間関係に当てはまるのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」3.6.6日

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名:「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人モラルロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
E-mail:book@morology.jp TEL:04-7173-3155

2021年(令和3年)2月5日(金曜日)

心 「**道徳の実行**」とは
 道徳とは、いったいなんですか。
 人は皆、「道徳とは何かよ」とをすることである」という点は理解しています。そして、具体的に何をすることかと尋ねられれば、誰でもいくつか示すことができますでしょう。例えば、マナーを守ること、親切にすること、困っている人がいれば助けること、他人の迷惑になるようなこととはしないこと、嘘(うそ)をつかないこと、約束は守ること、思いやりの心を持つことなど、たく

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉
「ニューモラルの心を育てる言葉366日」
 皆さんの心が挙げられます。一般に私たちは、「道徳の実行」とは、行為や言葉によって具体的に形に表して行うことと考えています。確かに、具体的に形に表して実行することも大切ですが、それ以上に大切なことは「どのような心づかいでそれを行うか」ではないでしょうか。日々、自分自身の心づかいを見つめていきたいものです。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)2月12日(金曜日)

心 **「支えられて生きる**
 私たちの人生は、常に、どこかで誰かに支えられています。
 この人生を喜びの多いものにしていくためには、そうした人たちとの絆(きずな)を深め、みずから進んで思いやりの心をはたらかせていくこと——「相手の人格を尊重し、受け入れていく心」や、「相手の喜びや悲しみに共感する心」が欠かせません。自分自身の心を開き、相手の心に寄り添い、これを無条件に受け入れてこそ、相手の言葉の裏にある「本当の思い」に触れること

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉
「ニューモラルの心を育てる言葉366日」
 ができるのではないのでしょうか。苦難に直面し、気持ち落ち込んだときは、「多くの人から支えられている」という事実にあらためて思いを致してみましよう。その人たちへの感謝の思いから、「皆に恩返しをしたい」「自分も誰かを支えることができるようになりたい」という気持ちが生まれたなら、きっと前向きな心を取り戻すことができるでしょう。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)2月19日(金曜日)

心 「**来た道**」と「**行く道**」
 私たちはこの世に生を享(う)け、成長し、年齢を重ね、それぞれの人生を生きています。この人生は、一回限りです。
 身近にいる子供たちの姿には、自分自身の幼かったころの姿を重ねることができません。それは、自分が歩んできた道です。そして、お年寄りの姿の中には、これから歩んでいくとうとする将来の自分の姿を見いだすことができます。お互いに支え、支えられて生きていく人生だからこそ、人を思い

道徳で人と社会を幸せに

「道徳」教科化—ヒントの泉
「ニューモラルの心を育てる言葉366日」
 やる優しい心が大切なのです。敬老の心を深めることは、私たちが道徳心を育み、人間として成長していくことでもあります。まずは自分の親や祖父母、また、身近な人生の先輩に、「心のこもった「感謝の気持ち」を表してみたいかがでしょうか。きっと世代を超えて、温かな心の懸け橋がかかることでしょう。

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
 住所・氏名「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
 公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1
 E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)3月12日(金曜日)

心 「おかげ」の背後にあるもの

私たちは、時に「なんでも自分の力でやっている」と思うことがあります。しかし本当は違っていて、気がつかない「何か」に後押しされているのかもしれない。私たちが本を読むことができ、字が書けるのは、なぜでしょう。もちろん「自分で勉強したから」ともいえませんが、勉強できたのは、先人たちが築き上げた学校教育というもののおかげであり、教師に教えられたおかげではないでしょうか。何より今日、私たちがこの世に生きているのは、

道徳で人と社会を幸せに

私たちが愛し、守り、育ててくれた親のおかげでしょう。親は子供の前を歩いていくようにですが、その心は子供の後ろにあって、必要なときはいつでも子供を支え、後押ししようとしているのではないのでしょうか。

私たちは、もつともつとたくさんの「おかげ」に気づき、その背後にあるものに感謝の気持ちをささげていきたいものです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)3月19日(金曜日)

心 心の持ち方一つで

会社員のKさん(28歳)は高校三年生のころ、大学入試の直前に事故に遭い、入院したため、その年の受験はできませんでした。しかし「この経験をばねにして伸び上がる」と心機一転、努力の末に、翌年には志望校に入学。大学卒業の際の就職活動にも、「同級生より遅れて社会に出るのだから」という思いで一生懸命に取り組んだといえます。そして今、晴れて結婚式を迎えたKさんは、「事故がなければ今の会社に就職したかどうか

道徳で人と社会を幸せに

かも分からないし、妻との出会いもなかったかもしれない。けがをしたからこそ今の自分がある」と振り返ります。

長い人生、時には予期せぬ困難に直面するものです。ひとたび生じてしまった事態は元に戻せませんが、自分自身の心の持ち方一つで、その経験も「人生の土台」という、意義あるものに変えることができるのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)3月26日(金曜日)

心 老いと生きがい

長寿社会を迎えた日本。これはたいへん喜ばしいことですが、老いてからの人生が長くなると、老後の生き方が問われるようになります。

定年後も長く続いていく人生をいつまでも生き生きと過ごす秘訣(ひけつ)として、社会教育家の田中真澄(たなかますみ)氏は「老後も自分の好きな仕事に従事すること」を提案しています(参考)『田中真澄のいきいき人生戦略』モラロジー研究所。

みずからの人生の目標や生

道徳で人と社会を幸せに

生きがいとなり得る「仕事」の存在は、私たちの毎日に張り潤いを与えてくれます。しかし、仕事とは必ずしも「報酬を得るための職業」に限らないでしょう。私たちは、家庭内での役割やボランティア活動を含めて、なんらかの「仕事」に前向きに取り組むことで、自分自身も喜びを得ながら、持てる力を周囲の人々のために役立てていくことができるのです。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉366日」

掲載日から2日間限定で10名様に**プレゼント!**

道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号

住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。

公益財団法人モラロジー研究所 〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1

E-mail: book@moralogy.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)4月9日(金曜日)

学校教育を受ける時代と成人期の初めごろまでは、一人前の社会人になるための修行の時代といえますから、いろいろなことを学ばなければならぬのは当然といえは当然でしょう。ところが経験を積んでくると、新しいことを学ぶのが面倒になることもあるのではないのでしょうか。

しかし、人の一生を「心の成長の旅」としてとらえるなら、体力や気力が衰え始める壮年期

♡「心の成長の旅」を通じて

道徳で人と社会を幸せに

以降は、心の面の成長を「学び」の目的としていきたいものです。「心の充実」や「心のゆとり」は、この年代にこそ望まれるものでしょう。

生涯学習の目的は、私たちが青年期だけでなく、壮年・高年になっても学び続けることで、自分の能力を十分に開花させ、心豊かな人生を築くことにありたいと思います。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)4月23日(金曜日)

♡人の「思い」に心を向ける

私たちが相手の思いを受けとめることができるようになるためには、何かきっかけが必要なのです。そのきっかけは、人によってさまざまです。

それは子供に起こるさまざまなお問題や、自分自身の人生の転機といえるような、大きな出来事かもしれない。また、特別な出来事がなくても、日々の自分の心を見つめ直すことで、相手の思いを受けとめるきっかけを得ることもあります。いずれにしても、そのきっかけをどう受け

道徳で人と社会を幸せに

とめるかは、自分自身の心次第です。

相手の思いを受けとめる心を失っているときは、自分の思いにとらわれすぎていることが多いものです。私たちは、自分のことだけに目を向けるのではなく、心を大きく開いて、他の人の思いに心を向ける努力が大切です。そうすることで、自分自身も喜びを見いだすことができ、心豊かな日々を送ることができるようになります。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155

2021年(令和3年)4月30日(金曜日)

♡「祈り」が人生を豊かにする

日本語の「いのり」という言葉の語源は、「生宣(いのり)」だと解釈されています。人生にはいろいろな悩みや難問が待ち受けていますが、「自分はめげずに頑張つて生きるぞ」と宣言することが「祈り(生宣り)」といえます。自分に宣言をすることで、心は積極的に問題に向かつていけるようになるはずです。

また、一九二二年にノーベル生理学・医学賞を受賞したフランス人医師のアレクシス・カレル博士(一八七三〜一九四四)は、「祈る人

道徳で人と社会を幸せに

たちの間には、義務と責任の感情があり、嫉妬(じつと)と意地悪さは弱まり、他人に対する善意が見られるのが特徴である」と述べています(『ルルドへの旅-祈り』春秋社)。自分のために祈るだけでなく、人の幸せのために祈り、大自然への感謝の気持ちを含めて祈る—そうした習慣を持つことで、いつそ心豊かな人生を歩むことができるのではないのでしょうか。

「道徳」教科化—ヒントの泉

「ニューモラルの心を育てる言葉」366日

掲載日から7日間限定で10名様に**プレゼント!**
道徳を考える月刊誌「ニューモラル」最新号
住所・氏名・「房日新聞」を明記の上、メールまたは電話でお申し込みください。
公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 〒277-8654 柏市光が丘 2-1-1
E-mail: book@morology.jp TEL: 04-7173-3155